

優勝を左右する十日目の大一番で、本来なら「押せ！押せ！」と大きな声を出して応援したい磯ノ海親方だが、感染対策で「声を出さないの応援禁止」と決められて、それができないのが辛いことを。注目の一番は白閃光が受けて立つ若ノ嶋は逆白閃光を土俵に追い詰めてそのまま押し出した。「よし！勝ったー！」と錦風親方。一方の磯ノ海親方は「くそっ！駄目だったかー！」と落胆の表情。若ノ嶋は1敗を守り、白閃光は2敗に後退した。



若ノ嶋○(押し出し)●白閃光

好調の鬼ヶ嶽は関脇千代鈴に当てられた。鬼ヶ嶽はここで勝つようなことがあると優勝も見えてくる。一時は新大関の場所でも優勝を飾り、横綱を前にした実力者が復活の兆しを見せている。先場所は十両三枚目で6勝5敗の星ながら番付運良く幕内返り咲きを果たしたものの、幕内で勝ち越せるんだらうかという声も聞こえる中で迎えた今場所だったが、「目に見えない不思議な力」が加わったような活躍ぶり。

千代鈴とは初の対戦。「若ノ嶋戦で力を使いたしたような感じだけども」と春日根親方。今の力から言えば千代鈴だろうが、今場所の鬼ヶ嶽は一味違う。一方の千代鈴は関脇進のためには連勝することが最低条件で負けるわけにはいかない。初顔の一番は千代鈴が鬼ヶ嶽の右を封じて左を差して攻め立てる。しかし、鬼ヶ嶽も粘って簡単には土俵を割らない。千代鈴の奇りを懸命に堪えたものの、最後は千代鈴が鬼ヶ嶽を向正面に寄り切りで下した。これで鬼ヶ嶽は2敗に後退した。



鬼ヶ嶽○(寄り切り)○千代鈴

「今場所優勝すれば、横綱昇進だ！」との声が上がると大関佐賀ノ海は十日目に横綱春ノ翔と対戦。千秋楽に2敗同士の白閃光と鬼ヶ嶽の取組が組まれたことから3敗の優勝がなくなり、佐賀ノ海は優勝するための負けられない。一方の春ノ翔は中盤にまさかの3連敗で、ここまで5勝4敗。勝ち越しのためにはあと1勝が必要で、春ノ翔も負けられない一番。

横綱大関の一戦は、佐賀ノ海が右から投げに春ノ翔が左を差して前に出る。しかし、体勢が低すぎたか、佐賀ノ海が引くと土俵を体2敗を守り、春ノ翔は千秋楽に勝ち越しを賭けることになった。



春ノ翔●(引き落し)○佐賀海

2敗に後退した鹿富士は同門英笹と対戦。「鹿富士に2敗を守らねばならぬけど、英笹も三役を維持するために負けられないしなあ。」と複雑な思いの鹿賀乃戸親方。勝負は意外にも英笹がのど輪で鹿富士を土俵の外へ吹っ飛ばす豪快な相撲で勝利した。これで鹿富士の優勝はなくなり、「ふうっ！」とため息をつく鹿賀乃戸親方。「英笹！明日は絶対勝てよ！じゃないと勝った意味がないぞ！」と激を飛ばしていた。



英 笹○(押し倒し)●鹿富士

十日目時点で優勝争いを演じる6力士の内唯一優勝経験のないのが太刀鳳。白閃光と鹿富士に敗れたのみでここまで7勝2敗。「太刀鳳の実力はまあ、まだ優勝は無理だよ」と好成绩には喜んでいた友砂親方。優勝までとは考えていないといった友砂親方。十日目は初の三役、関脇出羽翼との対戦が組まれた。ここは三役の賞禄で出羽翼が押し倒して勝って太刀鳳は3敗、優勝の目はなくなった。

剛勇山は自己最高位の前頭筆頭で2横綱2大関に勝って、ここまで5勝1敗とあって、このまま新三役昇進が一濃厚となる。それに加えて殊勲賞の有力候補となる。多くの紙相撲ファンが応援を追い風に小結若巨に引き落としを勝って嬉しい勝ち越しを決めた。



若 巨●(引き落し)剛勇山

そして迎えた千秋楽。まずは、白閃光と鬼ヶ嶽の2敗同士の対戦。勝った方が優勝争いに留まることになる。今場所の両者はともに大関に上がった全盛期の力には及ばないが、復活を感じさせる相撲で優勝争いを演じた。白閃光は大関佐賀ノ海を敗り、鬼ヶ嶽は横綱若ノ嶋に完勝した。両者の対戦成績は白閃光の5勝4敗だが、約3年振りの対戦。

「磯ノ海さん、もう青木は戻ったみたいだから心配はいらないよ。」と錦風親方。九日以前以降の鬼ヶ嶽の相撲を見ると、どうも青木は若ノ嶋戦だけだった方の見立て。注目の一番は白閃光の右が牙えて押し倒して鬼ヶ嶽を下して9勝2敗とした。「よっしゃ！」と小さな声で喜びを表わす磯ノ海親方。決定戦に磯ノ海の結果を待つことになった。



白閃光○(押し倒し)●鬼ヶ嶽

三役揃い踏みのもと、結び前で佐賀ノ海と太刀鳳が対戦。佐賀ノ海は勝てば優勝決定戦の可能性が残る。さらにはそうならば横綱昇進の可能性も出てくる。一方の太刀鳳は入幕2場所目で千秋楽の三役揃い踏み土俵に上がるという栄誉を授かった。さすがに初めてのことと所作を間違えないようにと、初めて頭がいったい宝刀のどの輪の前、屈した。佐賀ノ海は9勝2敗として、結びの一番の結果を支度部屋で待つこととなった。

そして、今場所最後の一番、若ノ嶋と春ノ翔の両横綱が土俵に上がる。若ノ嶋は悲願の横綱初優勝まであと1勝。一方の春ノ翔はこの一番に勝ち越しを賭ける。ともに負けられない一番。もし若ノ嶋が負けると佐賀ノ海、白閃光との三つ巴の優勝決定戦にもつれ込むことになる。

親方衆が固唾を飲んで見守る中、行司軍配が返る。お互い緊張があったか、立合い不成立。2度目の立合いは両者五分。そこから春ノ翔が左を差して前へ出るが、若ノ嶋が引くとそのままだったりと土俵についた。



若ノ嶋が勝って悲願の横綱初優勝。感染対策が施される中、静かな拍手が起こり、錦風親方は他の親方からグータッチの祝福を受けた。若ノ嶋の優勝は3回目となるが、直近の優勝は大関時代の第135回本場所での、2014年8月以来の実に7年ぶりの優勝となる。

春ノ翔は残念ながら新横綱の場所でも負け越しとなった。新横綱として場所前のイベントなどで多忙を極め十分な稽古ができなかったことや横綱としての重圧が重荷になったことも考えられる。

続く表彰式では、若ノ嶋が朝日松理事長から賜杯を授与されるとともに、優勝旗は元関脇里の錦風理事から授与されるといふ協会の配慮もあった。

千秋楽の打出し後、佐賀ノ海の横綱昇進、千代鈴の大関昇進に話が及んだ。佐賀ノ海は直近4場所ですべて6勝8敗と平均9勝で優勝2回という高いレベルの成績で、今場所も若ノ嶋に次ぐ準優勝の成績だった。しかし「もう1場所様子を見たい。」という朝日松理事長の判断で理事会は招集されなかった。また、千代鈴は7番勝てばという声も出ていたが、千秋楽に鹿富士に負けて6勝に止まり、大関昇進は見送られた。